

【西日本スーパー・メガリージョン（SMR）勉強会の目的】

西日本地域は、訪日外国人（インバウンド）を始め「アジアのゲートウェイ」としての役割を果たすべく、リニア中央新幹線の開業前から、西日本地域の魅力向上など、地域・圏域を越えた広域的な連携・交流の実現に向けて有識者や西日本地域の行政機関・関係者が集まり意見交換等を行い、スーパー・メガリージョン形成の効果を西日本全域に波及させることを目的としたものです。



西日本SMR勉強会(話題提供、意見交換)開催概要

第1～4回（話題提供）

- ・期 間：平成29年12月18日～平成30年1月29日
- ・開催地：4圏域で開催
大阪、広島、高松、福岡
- ・目 的
SMRに関する話題提供、地域間連携の気運醸成

話 題 提 供 者

（大阪開催）平成29年12月18日（月）

- ・京都大学 小林教授
- ・名古屋大学 森川教授
- ・関西経済連合会 出野常務理事・事務局長
- ・国土交通省 国政局 池田計画官

（広島開催）平成29年12月25日（月）

- ・京都大学 小林教授
- ・国土交通省 国政局 池田計画官
- ・神戸大学 小池教授

（高松開催）平成29年12月26日（火）

- ・京都大学 小林教授
- ・国土交通省 国政局 池田計画官
- ・東工大 真田准教授

（福岡開催）平成30年1月29日（月）

- ・京都大学 小林教授
- ・国土交通省 国政局 岸計画官
- ・日本総合研究所 寺島会長

※肩書は開催当時

アンケート結果から見たこと

- ・殆どの圏域で半数以上が「リニアの大阪開通時には何らかの影響がある」と答えている。
- ・一方、「リニア開業やSMR形成について何らかの対応をしている」と答えたのは、全ての圏域で1割程度である。
- ・全ての圏域で約4割以上が「圏域内外の連携を検討する体制が必要」との意見を持っている。

- ・リニア開通、SMR形成に向けた取組の必要性について呼びかけることが必要
- ・地域や圏域を越えた広域的な連携や交流の推進について、意見交換・検討する場が必要

第5～6回（意見交換会）

（大阪開催）平成30年3月20日 ※有識者による意見交換

- ・京都大学_小林教授、神戸大学_正司教授、政策科学大学_家田教授、大阪府市長会長_阪口高石市長、本省国政局

（大阪開催）平成30年6月15日 ※自治体(瀬戸内海)首長との意見交換

- ・基調講演：本省国政局_野村局長
- ・発 表：高石市_阪口市長、宇部市_久保田市長、南あわじ市_守本市長
- ・意見交換：京都大学_小林教授、神戸大学_正司教授、各行政機関、ご発表者

資料提供：近畿地方整備局

～西日本まるごとゲートウェイ構想に向けて～ リニア中央新幹線により東京・大阪間が1時間で結ばれ、三大都市圏が一体化する「スーパー・メガリージョン」の効果を西日本全体に波及させることを目的に、西日本(中国・四国・九州)各地域の経済団体・地方整備局もご参加いただき、有識者を招いて意見交換を行いました。

【開催概要】

- 日 時：平成30年6月15日(金) 15:30～17:30
- 場 所：大阪合同庁舎第1号館 別館2階 大会議室
- 出席者：国土交通省国土政策局、近畿地方整備局、近畿運輸局、国の地方支分局、地方公共団体、経済団体、他圏域の整備局および経済団体 等 約100名

<有識者>

- 京都大学経営管理大学院 教授 小林 潔司
- 神戸大学大学院 教授 正司 健一
- 国土交通省国土政策局 局長 野村 正史
- 山口県宇部市 市長 久保田 后子
- 兵庫県南あわじ市 市長 守本 憲弘
- 大阪府高石市 市長 阪口 伸六



※肩書は開催当時

【基調講演】

「SMR構想の全国展開に向けて(西日本広域連携への期待)」

国土交通省国土政策局 局長 野村 正史

■SMRとは

- ・三大都市圏の一体化により、日本の東西時間距離が大幅に短縮されることがスーパーメガリージョンの意義として大きい。
- ・時間短縮に伴うコストダウンだけでなく、交流機会が増え、イノベーションによる生産性の向上により経済効果も生み出される。西日本のオンリーワン企業と東日本の企業の技術・ノウハウの結合により新たなイノベーションが創出される可能性がある。



■我が国を取り巻く状況

- ・リニア開業までの20年の間に我が国は人口減少、高齢化が大きく進む見通し。
- ・東京圏はバブル崩壊後、一時期転出超過になったが、その後ずっと転入超過が続いており、東京への人口流入は経済状況と連動している。

■西日本の広域連携に向けて

- ・西日本4ブロックの移出額は関東とほぼ同じであり、西日本が力を合わせれば、関東と同規模の経済圏域となる。
- ・西日本には文化の厚みや豊かな地域資源があり、バラエティ豊かな回遊・周遊のコースが描ける。特に人を惹きつけるものとして海と島はかせない。
- ・生産性革命本部が打ち出した「地方創生回廊中央駅構想」は、リニアが新大阪に入る前提で、新大阪の地下に新たな接続拠点をつくり、西日本の核になるというイメージ。
- ・リニア開業はまだ20年先だが、それまでにどういう思いを持ち、何をどう取り組むべきかが重要。リニアが来た時にその成果が得られるかどうかがか大きな鍵。

■「田園回帰」の胎動

- ・以前は移住の相談はシニア層が多かったが、最近は若い人たちが動き始めている。

3

資料提供：近畿地方整備局

【発表】リニア&瀬戸内クルーズによる地域活性化について

山口県宇部市 市長 久保田 后子

- 世界最悪の大気汚染から立ち上がるべく、産・官・学・民、関係者のプラットフォームをつくり1950年代に確立した手法を、今日の人口減少、地方創生にも活かしている。
- 西日本まるごとゲートウェイ構想のひとつとして、瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会と連携したリニア&瀬戸内クルーズは、地域の活力をもたらす。
- 宇部市の公共交通は、鉄道が悲劇的な状況にあり、それを支えるバスも独立採算の維持は困難な状況であり、多額の財政支援を行っている。そこで地域公共交通網形成計画や地域公共交通再編実施計画を策定し、改善に取り組んでいる。



【発表】瀬戸内海を中心とした西日本の魅力について

大阪府高石市 市長 阪口 伸六

- 90年前の観光俯瞰図をみると、淡路島、小豆島、宮島が同じ大きさで描かれており、古来から観光地として存在していたことがうかがえる。
- 船から眺める景色は素晴らしい。旅行者が求めているものは本物を体験することであり、何かを学ぶことができたり、心に残るものであったり、特別なものである。
- これからは地域の魅力を情報発信することが必要であり、首長をはじめ、いろいろな人がPRしていくことが必要。



【発表】西日本地域の壮大なサイクリングロードに向けて

兵庫県南あわじ市 市長 守本 憲弘

- 淡路島はアワイチというサイクリングで盛り上がっているが、大鳴門橋を自転車道としても利用すれば、しまなみ海道、ピワイチをつなぐ壮大なサイクリングロードになる。
- 広島県備前市の漁師がアマモを植え、里海をつくらうという運動が始まっており、全国有数の工業地と両立したモデルをつくることできる。これにより、森から川、海という栄養供給のルートや下水道の排水に少しでも栄養が入ったかたちでの還元等により、瀬戸内の海の文明と自然との共存が可能となり、アピールにもつながる。



【意見交換】～西日本地域の関係者によるフリートーク～

- アート、自転車、生態系を守る等様々なテーマがある。(池田局長)
- 瀬戸内海間で連携したダイナミックな人の動きに期待。(交通政策部)
- 瀬戸内を考えるとクルーズとサイクリングは欠かさない。(観光部)
- リニア大阪開業までに、四国新幹線整備の目処を付けたい。(四経連)
- クルーズツアーは面白い試みだが、内陸部に来てもらえるようなルート設定があると望ましい。(中経連)
- 地域経済というものは、仕事・暮らし・遊びである。真剣に遊びについて議論することが重要。(小林先生)



※肩書は開催当時

資料提供：近畿地方整備局

4